# 第 157 回 CiecAP 運営委員会 国際会議補助報告書

資料 No.	< T C 4 7 関係 > 国際会議報告書
157-3 / TC47-	SC47E/WG1「半導体加速度センサ」韓国会議報告書 20060619 - 20060921
157-3 / TC47-	SC47E/WG3「パワーデバイス」韓国会議報告書 20060707 - 20060707
157-3 / TC47-	TC47/WG9「集積回路 / 半導体 EMC 測定方法」ワルシャワ会議報告書 20060424 - 20060426
157-3 / TC47 -	TC47/WG2「集積回路 / ディジタルIC」ワルシャワ会議報告書 20060426 - 20060427
157-3 / TC47-	TC47/PT62258「半導体ベアダイプロジェクト」ポーツマス会議報告書 20060717 - 20060718
資料 No.	<sc 62a="" 関係="">国際会議報告書</sc>
157-3 / SC62A-	SC62A/JWG5「生体閉ループ」リューベック会議報告書 20060703-20060706
資料 No.	< T C 8 0 関係 > 国際会議報告書
157-3 / TC80-	TC80/WG1「レーダ・プロッティング装置」ハンブルグ会議報告 20060704 - 20060706
157-3 / TC80-	TC80/WG6「デジタルインタフェース」ストックホルム会議報告書 20060606 - 20060629
157-3 / TC80-	TC80/WG14「基地局・航法支援」サンジェルマン会議報告書 20060605 - 20060609
資料 No.	< T C 9 1 関係 > 国際会議報告書
157-3 / TC91-	IEC/TC91 WG-Mtg.ベルリン会議出席報告 (西山)20060517-20060519
157-3 / TC91-	TC91WG2 ベルリン会議報告 (梅垣) 20060516-20060517
157-3 / TC91-	TC91WG3 ベルリン会議報告 (春日) 20060517-20060518
157-3 / TC91-	TC91/WG3-TC47/WG2 Joint 会議報告(高橋)20060519-20060519
157-3 / TC91-	TC91-62468-Pj 会議報告(潮)20060519-20060519
157-3 / TC91-	IEC/TC91-WG12 ベルリン会議報告 (山内) 20060515-20060516
資料 No.	<tc100 ta1関係="">国際会議報告書</tc100>
157-3 / TC100 / TA1-	PT62487 (TV 平均消費電力測定法 PJ)会議報告書 20060718 20060719
資料 No.	<tc100 ta5関係="">国際会議報告書</tc100>
157-3 / TC100 / TA5	TC100 / TA5「マルチメディアシステム・機器 / ケーブルネットワーク」ハンブルグ会議報告書 20060614
資料 No.	< T C 1 1 0 関係 > 国際会議報告書
157-3 / TC110-	TC110_WG4 国際会議出席報告書(060609SanFrancisco)_篠田氏
157-3 / TC110-	TC110_WG5 国際会議出席報告書(060601SanFrancisco)_田辺氏

運営委員会・資料番号: 157-3/TC47-

提出日: 2006年7月7日

(報告者記載)整理番号: H18SC47E

## IEC 国際会議出席報告書

TC/SC/TA 担当委員名: 赤羽根克己 報告書作成者氏名: 梅田 章 (会社名) 産総研

出席会議名(半角)	区分		組織番	SC47EWG1, TC47WG4
Joint Ad-hoc	□TC □SC □TA □WG □PT	□その他	号 (TC/SC/TA)	(半角)
meeting (TC47/ WG4 and	□TC □SC □TA ☑WG □PT	□その他	名 称	Joint Ad-hoc meeting SC47E/WG1 and TC47/WG4
SC47EWG1) Gyeongju,	□TC □SC □TA ☑WG □PT	□その他	(日本語)	(SC47EWG1, TC47/WG4 合同アドホック会議)
Korea Meeting 2006	☐TC ☐SC ☐TA ☐WG ☐PT	□その他	□単独	開催
開催期日	2006年6月19	9日~ 2	2006年6月	21日
開催場所	(国名)韓国	(都市名)	) 慶州	
<i>チェアマン / コン</i> ベ <i>ţ</i>	Prof. Sekwang Park(SC47E/WG1) Dr. Rob Turner(TC47/WG4)	幹事国	韓国(SC	47 E /WG1 ) 英国(TC47/WG4)
参加国及び 参加人数	2ヶ国、主な国名日本(4名)、韓国(3名)、参加	人数(7)		
日本人出席者名(会)出	[ :補放象者…(例): 電子太郎(JEITA電子)] 梅田章(産総研)、大和田別樹(国際票準化工学研	充所)、岩岡秀	.人(金沢工業人	(学)、佐里浩二(オムロン)

議事概要(背景・目的・成果・問題点など)(この欄は 見かけは1行ですが 府定欄に改行しながら最大28行まで記入できます。)

梅田は、60747-14-4 半導体が応速度センサ規格のその後の状況を確認するために韓国の Joint meeting に出席する予定を立てた。 直前までは何の連絡もなく、昨年12月末に FDIS 原稿を提出したし、2月末には SC47E の幹事(韓国 Dr. Young Min Kim)経由で、「ISOとの話しはついた」と SC47E デロール委員長からのメールも受けていたので、特段の問題はないことを予想していた。 ところが、直前の6月15日なって、ISOとの間で、Jurisdictional problem が起きているとのメールが入った。その中で、ISO/TC108のセクレタリである Mrs. Blaeser が、「昨年11月東京で開催した SC47E の会議に ISO は招待されていない」との発言をして、問題を再燃させている。 デロール委員長は、ISO/TC108/SC3のセクレタリであるニールセン氏と交渉を重ねていたと理解していた。 昨年8月のパリでの SC47E/WG1ad-hoc 会議でニールセン氏を東京に呼ぼうとし連絡を入れたが来なかったし、日本国内の ISO 委員会にも声をかけたが、誰も来なかったというのが真相である。ISO/TC108 委員長のブルースダグラス氏は、ISOに相談があって然るべきだとの考えであるのに対し、IEC/TC47 委員長のニックリコーデス委員長は、半導体特有の問題があるのだから、IEC が作成するのは当り前である、とTC のレベルでは問題が解決できないことで、両者の意見が一致していることまでがメールで事前に判っていることであった。

韓国では、Young Min Kim 氏に面会し、詳細の話しを聞こうと考えて、ソウルの Korea Agency for Technology and Standardization で待ち合わせの約束をし、実際、月曜日 19 日に梅田は KATS に赴いたが、Kim 氏が多忙で来れず、結局話しは電話で行った。それによると、IEC 理事会、ISO 側との話しはデロール委員長がするから、「兎に角待て」というのが、Kim 氏からの話しであった。Kim 幹事とデロール委員長は電話で直接連絡を取り合って居るとのことであった。ISO の人々の考え方と IEC の考え方に、相当の開きがあり、且つ問題が技術面では片付かないところに来ていることが理解された。また、この政治志向の雰囲気が、ISO に非常に強いということが、Kim 幹事の話しから、理解された。 この Kim 氏との話しの内容を、会議にも伝えたが、取り立てて何か新しいアイディアが出る訳でもなく、待つしかないだろうとの結論になった。プロジェクトリーダーとしては、Kim 氏に定期的にメールを打って様子を聞こうと考えている。

[注]: 1.該当者は、出席会議終了後[6週間以内]に TC/SC/TA 担当委員経由で、IEC 活動推進委員会事務局宛ご提出下さい。 国際会議出席報告書の審議・承認の後に補助金を支払う。

会議終了後速やかに提出し、直近の運営委員会にて審議・承認を受けることが望ましい。

- 2. 本報告書は、同一会議に2名以上出席の場合、代表者が提出してください。
- 3.WGがTC/SC/TAと同時開催の場合は、WG会議内容はTC/SC報告に含めて報告書を提出して下さい。
- 4.報告書の追加、訂正が生じた場合は、運営委員会開催後1週間以内に事務局に提出して下さい。
- 5.この報告書は、手続き完了後、JEITAホームページ「IEC 活動推進委員会」に掲載し、会員企業への報告に替えます。

IEC 活動推進委員会事務局:(社)電子情報技術産業協会 標準化センター

運営委員会・資料番号: 157-3/TC47- (事務局記入)

様式 4

提出日: 2006年8月3日

(報告者記載)整理番号: H18S47E

# IEC 国際会議出席報告書

TCSC/TA 担当委員名: 赤羽根 克巴 報告書作成者氏名: 古賀 健司 (会社名)(株)日立製作所

出席会議名(半角) SC47E/WG3	区分 □TC□SC□TA 図WG□PT	□その他	組織番号	SC47EWG3 (半角)	
			(TC/SC/TA)		
	☐TC ☐SC ☐TA ☐WG ☐PT	□その他	名 称	  個別半導体 パワーデバイス	
	□TC □SC □TA □WG □PT	□その他	(日本語)		
	□TC □SC □TA □WG □PT	□その他	□単独	開催 □同時開催	
開催期日	2006年7月7	2006年7月7日 ~ 2006年7月7日			
開催場所	(国名)韓国	(国名) 韓国 (都市名) ソウル			
チェアマン / コンベナ	古賀 健司(SC47E/WG3)	幹事国	韓国(SC47E	)	
参加国及び 参加人数	3ヶ国、主な国名 韓国(3名)、ドイツ(1名)、日本	(2名)、	<b>以数(6)</b>		
日 本 人	[ :補放豫者・・ (例): 電子太郎(JEITA電子)]				
出席者名(会括)	古賀健司(日立)、由宇義珍(三菱)				

議事概要(背景・目的・成果・問題点など)(この欄は見かけは1行ですが 所定欄に改行しなが6最大28行まで記入できます。)

背景・目的: SC47EWG3ドイツ/ニュルハ・ルグ 会議('06.03.14-15)の報告

10月ロンドン会議に向けての今後の方針審議

#### 成果と課題:

- 1 . SC47EWG3 ドイツ/ニュルンベルグ会議(06.03.14-15)の報告:
  - (1) 60747-9Ed2(IGBT): 47E/282/CDV の各国3メントに対する Observations 纏め案審議経過。 各国(4 ヶ国)3メントに対して、逐一検討・議論し 47E/282/CDV の Observations に纏め、幹事に 4 月末に送付したことを報告した。
  - (2) 60747-7Ed3(BTR): MCR 再設定及び05.11 月東京会議にて「か提案の抵抗内蔵型 BTR(含日本暫定案)の審議経過。

東京会議で再度提出することになったMCRは CD:'06/12,CDV:'07/05,FDIS:'07/11,IS:'08/03に再設定したことを報告した。また、'05.11 月東京会議にてドが提案の抵抗内蔵型トランジスタに関しては日本案がンタを審議したことを報告。但し、日本の国内委員会では内容を検討中であり、次回のロンドン会議には日本からエキスパートを出すことを報告した。

- (3) 60747-8Ed3(FET): MCR 再設定。
  - 60747-7Ed3(BTR)と同様 CD:'06/12,CDV:'07/05,FDIS:'07/11,IS:'08/03 に再設定したことを報告した。
- (4) 60747-15Ed2(Isolated Power Semiconductor Devices): PJ スタート(PJL; ドイツ)。
  - プロジェクトリーダがドイツ Dr.Wintrich に決定したことを報告した。
- (5)その他: フィン無しデバイスや SiC 等の新しいデバイスも考慮して欲しいとの意見あり。また、scope について見直し要との意見もあった。
- 2.10月ロンドン会議に向けての今後の方針審議:
  - (1) 60747-9Ed2 の FDIS 作業状況。

幹事に送付した Observations にコメントを記入した 47E/282/CDV は現在チェック中。FDIS は'06/08 迄にまとめることを報告した。

- (2) 60747-7Ed3(&-8Ed3)の WD for CD の作業状況(含む抵抗内蔵型トランジ スタ案)。
  - 現在 WD for CD の作業中。抵抗内蔵型トランダスク案は本文ではなく、Amendment として発行することになると報告。
- (3) 60747-15Ed2 のスケシ゛ュール。
  - 現在の Scope は対象範囲が広すぎる。次回のロンドン会議では Scope について議論することになるだろう。
- (4) ロンドン会議のスケジュール。
  - 当初予定の1日間から2日間に変更になり06/10/24と25で開催予定。

運営委員会·資料番号: 157-3/TC47-

様式 4

提出日: 2006年5月1日

(報告者記載)整理番号:H18SC47A

## IEC 国際会議出席報告書

TC/SC/TA 担当委員名: 中村 篤 報告書作成者氏名: 齊藤 義行 (会社名)松下電器産業株

	1		
出席会議名(半角)	区分	組織番号	SC47A (半角)
SC47AWG9	☐TC ☐SC ☐TA ☑WG ☐PT	□ その他 (TC/SC/TA)	3047A (+用)
	☐TC ☐SC ☐TA ☐WG ☐PT	□その他 名称	集積回路/ディジタルIC
	☐TC ☐SC ☐TA ☐WG ☐PT	□ その他 (日本語)	
	☐TC ☐SC ☐TA ☐WG ☐PT	□ その他 □ 単独	開催 □同時開催
開催期日	2006年4月24	4日~ 2006年4月	26日
開催場所	(国名) ポーラント	(都市名) ワルシャワ	
<i>チェアマン/コン</i> ベナ	Mart Cooenen(オランダ)	幹事国日本	
参加国及び 参加人数	7 ヶ国、主な国名 日本(4 名)、ドイツ、フランス、	、オランダ、アメリカ、ス	ポーランド、スイス、参加人数(14)
日 本 人	[ :補放像者・・(例): 電子太郎(JEITA電子)]		
出席者名(会培)	中村篤(ルネサステクノロジ)、 齊藤義行(松下電	器産業)、市川浩司(デンソー	-)、増田則夫(日本電気)

議事概要(背景・目的・成果・問題点など)(この欄は見かけは1行ですが、所定欄に改うしながら最大28行法で記入できます。)

1.前回議事録の確認とWG9 関連文書の最新ステータスの確認

前回議事録は特に修正なく承認された。最新ステータスでは62132-2(TEM-CELL)を除き、各プロジェクトが順調に進んでいることが確認された。62132-2 についてはアメリカ委員から 4/21 にドラフト送付済みであり、近日中に 748/CD が出されるという報告がされた。

2 . 47A/739/CDV (IEC61967-6 Amd1 : MP 法 ) の CC 確認 ( 4/28 締め切り )

被測定導体とプローブのグランド端との距離を規定しているのはおかしいという意見が出された。日本委員内で相談し、プローブのループの中心と被測定導体間で距離を規定するように変更することとした。また、General がわかりにくいという意見がポーランドより出され、General の案が提示された。それを加味して修正後、アメリカ委員に英語チェックしてもらうこととなった。

3. High Frequency Range について

61967 はほぼ規格化が完了したこともあり、チェアマンよりオーバー1GHz 対応を検討すべきという意見があり、現行の61967-1,2,3,6 は 1GHz 以上も対応可能であることが確認された。また、Part7 として「Mode Stirred Chamber Method」を2006年中に NP として出す予定であるとの報告がオランダよりあった。高周波領域の扱いについて詳細は議論されていないが、各国とも今後の必要性を感じているようである。

4 . 47A/720/CD (62215-3: Impulse Immunity)のCC確認

測定法の名前が「Synchronous Transient Injection」と修正され、次はCDV に移行することが承認された。

5 . 47A/744/CDV (62132-3:BCI)) 5/19 締め切り

BCIの議論をしたいという意見がフランスから出されたが、正式な CC が出るまで議論はできないというドイツの反対意見もあり、詳細議論は未実施。また、ドイツより BCI では測定と実使用との間に相関がない、BCI は測定規格ではなく、テスト規格であるといった厳しい意見があった。このため、次回会議に向けてフランスが端子毎に適用した例を示しすこととなった。なお、今後2CD/CDV どちらに移行するかは次回会議での議論しだいであり、現状では不明確。

- 6.47A/747/DTS (62228 Ed.1: CAN Bus)のCC確認(4/28 締め切り) 特に問題なし
- (\*)MP/CAN Bus ともに締め切り前であるため、ワルシャワ会議以降、コメントがなければそれぞれCDV/DTSV に移行、コメントが少なければe-Mail で議論、多ければ次回会議で議論することなった。
  - 7.その他

フランスから Local Injection Horn Antenna (LIHA) という新たな Near Field Immunity テスト法 (EMC Compo 2005 で発表) の紹介があった。TEM-CELL 法と類似した方法でもあり、各国の意見は否定的なものが多かったが、フランスは NP を出す予定。 また、チェアマンよりイタリアが NP を予定している IEC 62215-3 EFT の紹介があった。

- [注]: 1.該当者は、出席会議終了後[6週間以内]に TC/SC/TA 担当委員経由で、IEC 活動推進委員会事務局宛ご提出下さい。 国際会議出席報告書の審議・承認の後に補助金を支払う。
  - 会議終了後速やかに提出し、直近の運営委員会にて審議・承認を受けることが望ましい。
  - 2. 本報告書は、同一会議に2名以上出席の場合、代表者が提出してください。
  - 3.WGがTC/SC/TAと同時開催の場合は、WG会議内容はTC/SC報告に含めて報告書を提出して下さい。
    - 4.報告書の追加、訂正が生じた場合は、運営委員会開催後1週間以内に事務局に提出して下さい。

運営委員会·資料番号: 157-3/TC47-

様式 4

提出日: 2006年5月1日

(報告者記載)整理番号:H18SC47

## IEC 国際会議出席報告書

TC/SC/TA 担当委員名:_	中村 篤 報告書作成者氏名: 三谷 真一	-郎 (会社	名)㈱日立	製作所
出席会議名(半角)	区分		組織番号	SC47A (半角)
SC47AWG2	☐TC ☐SC ☐TA ☒WG ☐PT	□その他	(TC/SC/TA)	3047八 (中用)
	☐TC ☐SC ☐TA ☐WG ☐PT	□その他	名 称	  集積回路 / ディジタルIC
	☐TC ☐SC ☐TA ☐WG ☐PT	□その他	(日本語)	米は日本はアプイングルエと
	☐TC ☐SC ☐TA ☐WG ☐PT	□その他	□単独	開催 □同時開催
開催期日	2006年4月26	6日~ 2	006年4月	27日
開催場所	(国名) ポーラント	(都市名)	ワルシャワ	
チェアマン/コンベナ	三谷真一郎	幹事国	日本	
参加国及び 参加人数	7 ヶ国、主な国名 日本(6 名)、ドイツ、フランス、	オランダ、	アメリカ、ス	ポーランド、チェコ、参加人数(17)
日 本 人	[ : 補放豫者··(例): 電子太郎(JEITA電子)]			
出席者名(会招)	.三谷真一郎(日立製作所)、齊藤義行(松下電器産	業)、 市川湾	詞(デンソー)	、中村篤(ルネサステクノロジ)、増田則夫
	(日本電気)、栗本雅弘(沖電気工業)			
議事概要(背景・目的・	成果・問題点など)(この欄は 見かけは1行ですが 所定欄に	好亍しながら最大2	8 行まで記入できま	
1. IMIC (IEC62404 Ed	L 1)			
日本の提案案件で、T	IS にするべく DTS ドラフトを回覧。 DTS に対	して 4/24 ま	でに入手で	きたオーストリア、
ドイツ、英国のコメン	ソトを審議した。 (投票が 4/28 まで延長されたの	で、全ての	コメントば	「議できなかった。)

- 1) TR or withdraw の recommend については Not accepted でまとめた。
- 2) (5/1 時点の投票結果は3 加国の反対があるものの 12 票/15 票の賛成で approved。オランダのコメントが追加されており、メールベースで議論したい)
- 2. Low voltage family specification の改訂 (IEC60748-2-20 Ed. 2)

日本の提案案件であるが、PJ は未成立。成立させるべく 47A/745/Q を回覧。投票結果では反対はなく、6月の SMBで PJ として承認される方向で進んでいる。

1) JEITA 低電圧 SC のプレゼン

提案のScope とドラフトの内容について日本からプレゼンを実施。改訂に対する反対意見はなかったが、SchmittのAC spec をどう取り扱うかが日本の宿題となった。

- 2) 6月の SMB で承認を受けて CD を発行することの了解を得た。 10月のロンドン会議で CD への CC を審議する。
- 3. ICEM (IEC62433 Ed. 1)
- 3.1 Part 1 (General)
  - 1) 前回のオースチン会議でPart 1 をオランダが担当する事とした。今回はオランダの委員がPart 1 の基本的な考え方とNPドラフトの進歩状況の説明があった。
  - 2) Part 2 以降は Part 1 がベースになるので、9月までにオランダが NP 提案をするというタガをはめた。次回のロンドンでドラフトを議論できる見通しとなった。
- 3.2 Part 2 (Conducted emission)
  - 1) フランスが2CD 案の改訂版をその場で配布。内容的には1CD と大きく変わっていない。
  - 2) 大きな反対意見がなく 2CD を回覧することとなった。次回は 2CD に対する CC 文書を審議する予定。
- 3.3 Part 3 (Direct emission)
  - 1)フランスから NPの提案意向があり、Lafon 氏が説明。モデルの考え方が不充分で、実態を表しきれないため、NPを出す前にドラフトを Revise し、10月のロンドン会議で再度 NPの可否を議論することになった。
  - 2) 技術的には実用レベルには遠く、次回までに国際 WG2 で合意可能なレベルの251版を準備できるか微妙。
- [注]: 1.該当者は、出席会議終了後[6週間以内]に <u>TC/SC/TA 担当委員経由</u>で、IEC 活動推進委員会事務局宛ご提出下さい。 国際会議出席報告書の審議・承認の後に補助金を支払う。
  - 会議終了後速やかに提出し、直近の運営委員会にて審議・承認を受けることが望ましい。
  - 2. 本報告書は、同一会議に2名以上出席の場合、代表者が提出してください。
  - 3.WGがTC/SC/TAと同時開催の場合は、WG会議内容はTC/SC報告に含めて報告書を提出して下さい。
    - 4.報告書の追加、訂正が生じた場合は、運営委員会開催後1週間以内に事務局に提出して下さい。

運営委員会·資料番号: 157-3/TC47 -

提出日: 2006年8月10日

(報告者記載)整理番号: H18TC47

## IEC 国際会議出席報告書

TC/SC/TA 担当委員名: 田中政樹 報告書作成者氏名: 永広祐一 (会社名)(株)東芝

出席会議名(半角) TC47/PT62258	区分 Птс Пsc Пта Пwg Mpт		組織番号 (TC/SC/TA)	TC47 (半角)
104//1 102230			(10/00/1/1)	
	☐TC ☐SC ☐TA ☐WG ☐PT	□その他	名 称	半導体ベアダイプロジェクト
	☐TC ☐SC ☐TA ☐WG ☐PT	□その他	(日本語)	十等体 ジットプログエグト
	☐TC ☐SC ☐TA ☐WG ☐PT	□その他	□単独	開催 □同時開催
開催期日	2006年7月17	7日~ 20	006年7月	18 日
開催場所	(国名)イギリス	(都市名)	ロンドン	(変更)ポーツマス
<i>チュアマン/コ</i> ンベナ	J.Walbert(JEDEC)	幹事国	米国	
参加国及び 参加人数	5ヶ国、主な国名日本(1名)、英国(3名)、米国(	1名)、フラン	ンス(2名)、	スイス(1名))、参加人数 (8)
日本人 出席者名(会)出)	[ :補放豫者・・ (例): 電子太郎(JEITA電子)] .永江祐一(東芝)			

議事概要(背景·目的・成果・問題点など) (この欄は 見かけは1行ですが 所定欄に改元しながら最大28行まで記入できます。)

- 1.背景: ベアダイに関するIEC規格を作成するプロジェクトチームが2001年1月に承認され、欧州のベアダイ仕様ES59008をベースに米国/日本の意見を取り入れる形で国際版ドラフトを作成中である。
- 2.目的: 規格の目的はベアダイを調達する際にダイサプライヤーとダイユーザーの間でどのようなデーターをどのような形式で交換するかを示したもので、最低要求事項を定義している。

規格の構成は現在7つのパートに分かれており、パート1.(ペアダイ)調達と使用のための必要条件、2.取り交わしのデーター形式、3.(半導体チップの)取扱い/包装/保存の上手な実践のための推奨条件、4.ベアダ使用者と供給者の(間の)質問調査表、5//6.電気的/熱的シミュレーションに関しての(入力)情報の必要条件、7.データー交換のXML-schemaで構成されている。

- 3.成果: パート7については、パート1,2とリンクさせるような形で全体を見直し、DTR文書の準備が出来た。また主な内容としては、パート7では、パート1で具体的に明記されていなかった信頼性計算などという項目について、それは計算値、数量、引用(例;MIL×××によるとか) 試験条件を書くというような具体性を盛り込んだ。パート4については、新たに取り入れた項目などで、パート1,2とまだリンクはできていないが、単独のドキュメントとしてはDTRの準備が出来た。また主な内容としては、パート4ドキュメントのリエゾン回覧(DPC,JEDEC,BSI、IEC-TC40/56/101)の結果として新たに入っていた、ダイ・ユーザー側での組立後の不良については、ダイ・メーカー側でその不良解析をするなどの条項については、これは契約で処理すべき問題であるとしてドキュメント文より削除した。
- 4.問題点: パート4の質問調査表の中で新たに取り込まれた項目については、パート1,2についても取り込んでそれを定義する必要が出てきたので、すでに発行済みのパート1、2についても強力が必要となった。またここ2~3年の間に出てきた新技術用語の定義についても、パート1、2、3にそれを取り込む必要が出てきたので、それらの定義化とドキュメントへの取り込み作業は次回の10月会議で検討することとなった。また、パート8(EXPRESS schema for data exchange)という新たなDTR化が提案されたが、これはパート1のAnnexからの分離で、単独ドキュメント化したいとの提案。但し今回は具体的なことは示されず、この件も次回審議事項となった。
- [注]: 1.該当者は、出席会議終了後[6週間以内]に TC/SC/TA 担当委員経由で、IEC 活動推進委員会事務局宛ご提出下さい。 国際会議出席報告書の審議・承認の後に補助金を支払う。

会議終了後速やかに提出し、直近の運営委員会にて審議・承認を受けることが望ましい。

- 2. 本報告書は、同一会議に2名以上出席の場合、代表者が提出してください。
- 3.WGがTC/SC/TAと同時開催の場合は、WG会議内容はTC/SC報告に含めて報告書を提出して下さい。
- 4.報告書の追加、訂正が生じた場合は、運営委員会開催後1週間以内に事務局に提出して下さい。
- 5.この報告書は、手続き完了後、JEITAホームページ「IEC 活動推進委員会」に掲載し、会員企業への報告に替えます。

運営委員会·資料番号: 157-3/SC62A- (事務局記入)

提出日: 2006年7月26日

(報告者記載)整理番号: H18SC62A

# IEC 国際会議出席報告書

TC/CC/TA 也坐禾昌夕。 古川美人 超生事作成老氏之 , 由公勘 (合社名)日本兴雪丁类株式合社

	IUSUIA 担当安負名:_		以 (云仙石)口	1470电上来	<del>和以五</del> 社
	出席会議名(半角) SC62A/JWG5	区 分 Птс Пѕс Пта Пwg П	PT 又その他	組織番号 (TC/SC/TA)	SC62A/JWG5 (半角)
	3327401133	TC SC TA WG	PT       一 その他         PT       一 その他	名 称 (日本語)	生体閉ループコントローラ
		□TC □SC □TA □WG □	PT	⊠単独	開催 □同時開催
	開催期日	2006年 7	7月3日 ~ 2	2006年7月	16日
	開催場所	(国名)ドイツ	(都市名)	) リューベッ	ク
	チェブマン / コンベ ナ	Dr. Julian Goldman	幹事国	米国	
	参加国及び 参加人数	5ヶ国 主な国名 米 独 スイス、フィ:	ンランド、日本、	参加人数(*	13)
	日本人出席者名(会)出	[ :補放豫者…(例): 電子太郎(JEITA電子) 中谷敬(日本光電工業株式会社)	]		
H () 言	ISO/TC121/SC1&SC3 EC 60601-1-10 Medical Requirements for the deve 今回の JWG5 の会議では [討議内容と討議法果] 1) 各国からのコメントに 対議法果は、IEC 文書62/ 2) 討議法果を基に、CDV	成果 問題点など)(この欄は 見かけは1行ですが 月と IEC/SC62A の Joint Working Group (JWG5 Equipment Part 1-10: General requirement elopment of physiologic closed-loop controllers 配布された CD2 に対し各国より寄せられたコ (この財格の対象である Physiologic closed-loop 対して、JWG5 としての見解をまとめる討議を A/531/CC としてまとめられた。7月14日付で約7案が作成された。JWG 参加メンバにメールで	)で、次の副通り制 nts for basic safet メントについて誠 control system を した。 国国に配布。	定作業が進んで y and essentia 義し、CDV に PCLCS と略語	でいる。 al performance Collateral standard: 取り入れるかを審議した。 きする)
(i) 対 言 (i)	付してコメントの冒頭にそ 計に委ねられるべきである 4) CDV 作成に関する意見 PCLCS の動的応答、M 5) 討議でもっとも時間が ら、さまざまな例について	ムの制御方法や応答に関する記述を入れるように い言を記した。しかし、この副通則は、開発の らとの理由で採用されなかった。 別以外は、日本コメントの多くは取り入れられて letal Model の説明、terminology など。 割かれたのは、PCLCS の適用範囲であった。P TPCLCS かどうかが討議された。討議結果はA	プロセスを規定する 開格察に反映された CLCS を規定する nnexA、A.1 の記む	5規格であり、 E。 要点は次の3)	日本提案の内容は、個別の製品とその設 点であることが確認された。この観点か
1	土体发致(physiologic va	ariable)を測定して、その信号をフィードバック	しにる。		

閉ループコントロールをしている。

測定した生体パラメータを、操作者の設定した値ご調節(to adjust e.g. change or maintain)するシステムである。単に同期を取るだけに生体変数 を使用しているものは、PCLCSではない。

- (6) 次回JWG5 開催 ・期日: 2007 年4月11~13日 ・場所: Boston、アメリカ
- ・CDV 投票とコメントを基に、コメント審議と FDIS 案を作成予定
- [注]: 1.該当者は、出席会議終了後[6週間以内]に<u>TC/SC/TA 担当委員経由</u>で、IEC 活動推進委員会事務局宛ご提出下さい。 国際会議出席報告書の審議・承認の後に補助金を支払う。

会議終了後速やかに提出し、直近の運営委員会にて審議・承認を受けることが望ましい。

- 2. 本報告書は、同一会議に2名以上出席の場合、代表者が提出してください。
- 3. WG が TC/SC/TA と同時開催の場合は、WG 会議内容は TC/SC 報告に含めて報告書を提出して下さい。
- 4.報告書の追加、訂正が生じた場合は、運営委員会開催後1週間以内に事務局に提出して下さい。
- 5.この報告書は、手続き完了後、JEITAホームページ「IEC活動推進委員会」に掲載し、会員企業への報告に替えます。

IEC 活動推進委員会事務局:(社)電子情報技術産業協会 標準化センター

〒101-0062 東京都千代田区神田駿河台 3-11((三井住友海上別館ビル) Tel:03-3518-6435 Fax:03-3295-8727

(TSC-06 様式 2006.3)

運営委員会·資料番号: 157-3 / TC80- (事務局記入)

提出日: 2006年7月12日

(報告者記載)整理番号: H18TC80

## IEC 国際会議出席報告書

TC/SC/TA 担当委員名: 矢内 崇雅 報告書作成者氏名: 小松 裕昭 (会社名)古野電気株式会社

		•		
出席会議名(半角)	区分	ź.	組織番号	TC80 (半角)
TC80/WG1	☐TC ☐SC ☐TA ☑WG ☐PT	□その他(	TC/SC/TA)	1000 (千角)
	☐TC ☐SC ☐TA ☐WG ☐PT	□ その他 1	名 称	レーダ・プロッティング装置
	☐TC ☐SC ☐TA ☐WG ☐PT	□ その他(	日本語)	レークープロググイング役員
	☐TC ☐SC ☐TA ☐WG ☐PT	□その他	□単独	開催 □同時開催
開催期日	2006年7月4	4日~ 200	06年7月	6日
開催場所	(国名)ドイツ	(都市名)/	シブルグ	
チュアマン/コンベナ	Mr.Hans-KarlvonArnim/Mr. David Hannah	幹事国英	囯	
参加国及び 参加人数	7ヶ国、主な国名 英国、ドイツ、ノルウェー、	スウェーデン	ノ、カナダ、	日本 参加人数(15)
日 本 人	[ :補放像者・・(例): 電子太郎(JEITA電子)]			
出席者名(会)名)	小松 裕昭(古野電気)			

議事概要(背景・目的・成果・問題点など)にの欄は見かけは1行ですが、所定欄に改行しながら最大28行まで記入できます。)

1. 背景

2008年7月1日以後SOLAS 条約船に搭載されるレーダ装置に適用される IMO 性能基準修正決議 MSC.192(79) が採択され、型式承認調鉄財格作成の必要性が発生。

2. 目的

型式承認講験に必要となる技術要件及び要求される講義結果を定める国際規格 IEC 62388 を、2008 年 7月 1 日施行日に間に合わせるべく、2006 年末又は 2007 年始めに刊行する為に CDV 作成を目指す。

3. 成果・問題点

MSC.192(79) 5.3.1.3.3 及び 5.3.1.3.4 項に規定の "レーダ探知による初認性能をベンチマーク物標を使って試験し査定する"との要件を満足する為のベンチマーク物標発生シミュレータが、世の中に現存せず、英国 MCA・QinetiQ で進めている開発が捗らず、資金的に行き詰まっている現状から、2008 年 7 月 1 日の施行日に間に合わないことが決定的となった。その解決策として以下の手順を踏むことを決め IMO への提案書を作成:

- ・IMO NAV 52 (2006年7月17~21日)で IEC 62388 進捗状況報告と同時に IMO 加盟各国からの開発資金 調達 (約 Euro500,000)を提案する。
- ・提案が受けられ、資金調達の目処がたった後、レーダ製造業者とは関係のない専門家(英国MCA、ドイツBSH、 ノルウェーNMD)を出し、シミュレーダ設計を開始する。
- ・シミュレータ開発企業選定・契約・開発・プロトタイプ検証・製造・レーダ実機での受入検証・装置納入・使用上の訓練、等一連の手順に約4年が必要。
- ・シミュレータ利用可能となる迄は、暫定試験 (実際の種々環境に於ける長期に亘る試験、即ち、ある程度は 各試験当局の主観が入る可能性がある)を行って合否判定を行う。

問題点は、IMOで資金調査に加盟各国が応じるか否かで、もし否認されれば暫定試験のままで型式承認試験を継続することが許されるか、或いはベンチマーク物標発生シミュレータに代わる定性的・定量的で客観的な合否判定を下せる試験方法が見出せるかの見極めが必要となる。

今次第50回会合で上記問題以外の技術的及び表現方法の見直しは殆ど終了したが、今年末のFDIS回章目標は大幅に遅れ、CDV完成9月末、CDV回章10月、FDIS回章2007年4月、IS発行2007年7月が現時点で考えられる最短の予定で、MSC.192(79)施行日迄1年しかなく、試験財格のタイムリーな作成・発行を目指した取組みに今後問題を残す形となった。

- 4. 今後の会合予定: 2006年9月18日の週にCDV 最終のDrafting Meeting をハンブルグ BSH で開催予定。
- [注]: 1.該当者は、出席会議終了後[6週間以内]に TC/SC/TA 担当委員経由で、IEC 活動推進委員会事務局宛ご提出下さい。 国際会議出席報告書の審議・承認の後に補助金を支払う。

会議終了後速やかに提出し、直近の運営委員会にて審議・承認を受けることが望ましい。

- 2. 本報告書は、同一会議に2名以上出席の場合、代表者が提出してください。
- 3.WGがTC/SC/TAと同時開催の場合は、WG会議内容はTC/SC報告に含めて報告書を提出して下さい。

様式 4

運営委員会·資料番号: 157-3 / TC80- (事務局記入)

提出日: 2006年7月12日

(報告者記載)整理番号: H18TC80

## IEC 国際会議出席報告書

TC/SC/TA 担当委員名: 矢内 崇雅 報告書作成者氏名: 田北 順二 (会社名)日本無線株式会社

出席会議名(半角)	区分		組織番号	TC80 (半角)
TC80/WG6	☐TC ☐SC ☐TA ☒WG ☐PT	─ その他	(TC/SC/TA)	
	☐TC ☐SC ☐TA ☐WG ☐PT	□その他	名 称	デジタルインタフェース
	□TC □SC □TA □WG □PT	□その他	(日本語)	)
	☐TC ☐SC ☐TA ☐WG ☐PT	□その他	⊠戦	開催 □同時開催
開催期日	2006年6月26	6日~ 2	2006年6月	29日
開催場所	(国名) スウェーデン	(都市名)	ストックホ	ルム
チュアマン / コンベ ナ	Stefan Steiner	幹事国	スウェーデ	ン
参加国及び 参加人数	6ヶ国、主な国名米国、英国、ドイツ、ノルグ	フェー、スウ	ューデン、「	日本、参加人数 (12)
日 本 人	[ :補放豫者…(例): 電子太郎(JEITA電子)]			
出席者名(会培)	田北順二(日本無線)			

議事概要 ( 背景・目的・成果・問題点など ) (この欄は 見かけは1行ですが 府定欄に改引しながら最大28行まで記入できます。)

1. 背景

船舶潜機器のデジタルインタフェースに関する規格作成委員会である。

2 日於

舶用機器間のデジタルインタフェースを検討、審議する。特に今年5月投票が締め切られたIEC 61162-1 Ed3 CDV について各国から寄せられたコメントを審議する。また、レーダと VDR 間の LAN を利用したインタフェースについても審議する。

- 3.成果
  - 1)80/429/CDV IEC 61162-1 Ed3のドラフト(CDV)についての各国からのコメントについて審議し、CDV に修正、追加を加え FDIS 案を作成した。

現在の IEC 61162-1 CDV 内容の問題点

現在の IEC 61162-1 Ed3 CDV は、IEC 61162-1 に追加すべき 3 つの PAS 規格、PAS100(AIS 関係), PAS101

(NMEA の改訂対応), PAS102 (VDR 用センテンス)の内容を現在の IEC 61162-1 Ed2 に追加したのみである。 各国コメントの反映方法

各国コメントを受けて修正されて TC80 Secretary による FDIS 案が提出されていたが、CDV に追加すべき内容が非常に多いため、WG6 メンバー(NMEA)の作成した CDV 原案をベースに作成した。

CDV への追加が漏れていた次のセンテンスを追加した。

THS: True Heading and StatusDDC: Display Dimming ControlNRM: NAVTEX receiver maskNRX: NAVTEX received message

• ROR: Rudder Order • UID: User Identification Code Transmission

前回のWG6会議で検討した次のセンテンスは、PASとして発行することにした。

- ・TTD: Tracked Target Data (IEC 62388 レーダの Annex に追加) ・アラームハンドリング
- ・AIS 基地局用センテンス
- 2) IEC 61162-2 については、特に審議事項なし。
- 3 ) NMMEA2000 をベースにした IEC 61162-3 については、アラーム用 PGN の追加が続け中である等の進捗状況の報告が NMEA 委員からあり、次回の 10 月の WG6 会議で、CDV 案が WG6 に提出されることになった。従って IEC 61162-3 の CDV 発行は、10 月以降に延期となった。
- 4) IEC 61162-4 については、特に審議事項なし。
- 5) レーダとVDRのイーサーネットを使用してレーダ画像ファイルを転送する方式のインタフェースについて審議し、TCP/IPを使用した方式をWG6提案として、関連するWG1(レーダ) WG11(VDR)に提案することになった。
- 6) 次回の WG6 会議は 10月の第1週(10/3~10/5)に英国・ロンドンで開催予定。

運営委員会・資料番号: 157-3 / TC80- (事務局記入)

提出日: 2006年6月23日

(報告者記載)整理番号: H18TC80

## IEC 国際会議出席報告書

TCSC/TA 担当委員名: 矢内 崇雅 報告書作成者氏名: 矢内 崇雅 (会社名)沖電気工業(株)

出席会議名(半角)	区分		組織番号	TC80 (半角)
TC80/WG14	☐TC ☐SC ☐TA ☑WG ☐PT	□その他	(TC/SC/TA)	1 C80 (丰用)
	☐TC ☐SC ☐TA ☐WG ☐PT	□その他	名 称	基地局/航法支援
	☐TC ☐SC ☐TA ☐WG ☐PT	□その他	(日本語)	至1000000000000000000000000000000000000
	□TC □SC □TA □WG □PT	□その他	□単独	開催 □同時開催
開催期日	2006年 6月 5	5日~ 2	2006年6月	9日
開催場所	(国名) フランス (都市名) サンジェルマン			
チュアマン/コンベナ	Alan Stewart	幹事国 UK		
参加国及び 参加人数	8ヶ国、主な国名 日本、UK、米国、ドイツ、ス	ウェーデン	、カナダ、ノ	「ールウェー、IALA、参加人数(13)
日 本 人	[ :補放豫者・・(例): 電子太郎(JEITA電子)]			
出席者名(会括)	古山 賢二(日本無線)、 矢内 崇雅(沖電気工業)			

議事概要(背景·目的·成果·問題点など)(この欄は見かけは1行ですが、府定欄に改引ながら最大28行まで記入できます。)

- 1 背景 : AIS の基本的な要件は船舶 船舶 陸上同間でデータ通信が出来ることと規定されており、SOLAS 対象船舶に搭載される AIS 装置は既に IEC 規格として制定された。一方 AIS としての分類に陸上局及び航路標識用装置があり、IEC 規格を作成することで AIS システムとしての整合の取れた運用が望めることになる。
- 2. 目的 : 2006 年 5 月 19 日投票締め切りとして回章された 80/427/CDV IEC62320-1Ed.1 基地局 AIS の CDV に対して の各国からのコメント内容の審議と FDIS に向けたドキュメント内容の精緻化を図ることを目的とする。
- 3. 成果・問題点 : 3.1 日本、ドイツ及び米国等を含めて6カ国から、General、Editorial 及び Technical として 144 項目のコメントがあり金曜日までの 5 日間にてコメント内容の目的、CDV での記述内容との関連性及び FDIS への反映の可否の決定を行った。
- 3.2 本会議に使用した CDV ドキュメントはあらかじめ TC80Securetary にて Editorial 部分、Secretary が理解できる範囲の項目に関しては修正がなされていたが、全ての項目に関してWG14 メンバーにて再確認を行った。
- 3.3 日本からのコメントの33項目全体として受け入れられ、特に無線系項目及びPI センテンス関係については提案どおりに FDIS へのドキュメントに向けた修正がなされた。
- 3.4 米国コメントに関して、USCGでの運用基準の考えを反映した無線関系の規格をCDV 記述とは異なる内容が提案されたが、AIS としての全体的な規格の整合性及び米国以外の関系国からは特に強い要求が無いことから、IEC 規格としてはCDVでの規格を採用することとし、もし関系国政府が要求するならメーカとしてはその規格に従った規格でのNotified Bodyによる確認検査を受けることとしてのOption扱いに出来る記述内容にした。
- 3.5 基地局の Configuration に対する Security の強化のため、18 項目の基地局 AIS 専用のセンテンスを開発し、従来の IEC61162-1 で定義されているセンテンス構成に Comments Block なるセンテンスを付加する構成として IEC62320-1 の規格を開発してきたが、ここに来て FDIS 回章に当たって WG6 での確認が必須であるとの意見が示されたため、WG6 での Liaison Notes の審議如何によっては FDIS の回章時期への遅れが懸念される。
- 3.6 7月1日までに FDIS ドラフトを TC80 Securetary に送付するが、WG6 からのコメント対応への考慮から 7月10日から、主要メンバーにての Editorial 会議を開催して WG14 としての FDIS を作成する。
- 4. 今後の会合予定
  - ・第13回: 2006年8月21日~25日 ロシア セントピータスバーグ・・CDV案の作成
  - ・第14回: 2007年3月か4月予定 IEC62320-2 AtoN AIS Resolution会議
- [注]: 1.該当者は、出席会議終了後[6週間以内]に <u>TC/SC/TA 担当委員経由</u>で、IEC 活動推進委員会事務局宛ご提出下さい。 国際会議出席報告書の審議・承認の後に補助金を支払う。
  - 会議終了後速やかに提出し、直近の運営委員会にて審議・承認を受けることが望ましい。
  - 2. 本報告書は、同一会議に2名以上出席の場合、代表者が提出してください。

運営委員会·資料番号: 157-3 / TC91-

提出日: 2006年6月29日

(報告者記載)整理番号: 157-3/TC91-

## IEC 国際会議出席報告書

TC/SC/TA 担当委員名: 西山 和夫 報告書作成者氏名: 西山 和夫(会社名)ソニー(株)

出席会議名(半角) TC91 WG-Mtg.	区分 □TC□SC□TA⊠WG□PT	□その他	組織番号 (TC/SC/TA)	TC91 (半角)	
	TC SC TA WG PT	<ul><li>□ その他</li><li>□ その他</li></ul>	名称 (日本語)	電子実装技術	
	□TC □SC □TA □WG □PT	□その他	□単独	開催	
開催期日	2006年5月17	7日~ 2	2006年5月	] 19日	
開催場所	(国名)ドイツ	(都市名) ベルリン			
チェアマン / コンペ・ナ	Dieter W.Bergman	幹事国日本			
参加国及び 参加人数	6 ヶ国、主な国名 米国、ドイツ、英国、フィンランド、オランダ、日本、参加人数 (26)				
日 本 人	[ :補放像者・・(例): 電子太郎(JEITA電子)]				
出席者名(会括)	春日 壽夫(NEC エレクトロニクス)、梅垣 淳一(NECエレクトロニクス)、高橋 邦明(東芝)、田窪 知章(東芝)、				
	坂本 一三(オムロン)、潮 憲樹(パナソニックエレクトロニックデバイス)、田中 正樹(ルネサステクノロジ)、				
	山本 克己(テクノオフィスヤマモト)、大島 寛(ニチコン)、荒金 秀幸(ソニー)、気賀 智也(ソニー)、				
	西山 和夫(ソニー)、柴田 明一(JPCA)				

議事概要(背景・目的・成果・問題点など)(この欄は見かけは1行ですが、所定欄に対うしながら最大28行まで記入できます。)

#### 1. 背景・目的

TC91-WG2、WG3 及び Marking-Pj に関連した集中した審議を行 、規格文書の日本側意向の反映と日本提案の文書の IEC 規格化への推進を図る。また今回も TC91/WG3 と TC47/WG2 との Joint Mtg.を行 、お互いに関連した規格について意見の調整を行う事で規格の整合を図った。

### 2. 主な成果

- 2 1) WG-2
  - ・61190-1-2/1-3: 日本から提案中の鉛フリーはんだ材料/ペーストの規格焼打について CDV 文書に対する各国 コメントを審議し、一部修正しているが日本が用意した提案に沿って合意した。 これに基づいて FDIS を発行する。
  - ・61192-5:プリント配線板実装のリワーク規格であるが、文書の進捗を確認した結果 FDIS 原稿の Secretary への受け渡しが未了であった事が判り、Pi リーダーが資料を確認して送付する事とした。
  - ・鉛フリー表示: 具体的には WG1 ~ WG3 の横断タスクフォース (取り纏めは WG1) での検討であるが、Pj-Mtg.の前に WG2 としての意見を纏めたいとの事で、各国のコメントを審議し、observation 案を検討した。
- 2 2) WG-3
  - ・60068-2-54/2-69: 日本提案の「はんだ付け性試験」の規格であり、各々の文書審議の進捗を確認した。 2-54 は91/587/RVD が発行され、FDIS として承認された。4月末にIS が発行された。 2-69 は91/605/RVC の Observation comment について審議し、このコメントを考慮した FDIS 原稿を Pj メンバーに送付・確認した後に FDIS draft を secretary に送付する事とした。
  - ・61189-5/-6: 永らく Late project となったいたものであるが、昨年の TC91 Plenary Mtg.にて文書を再確認し、現在は FDIS 文書の発行 野間に来ている。

61189-6 は既に FDIS 発行されており、 6月末が投票期限。

- ・60068-2-82: 日本提案のウィスカ語験方法であり、今年始めに開催された Pj-adhoc 会議で合意した observation コメント を添付した RVC draft を作成。
- 更にコメントを反映した FDIS draft をメンバーに送付した後 Secretary に送付することとした。
- ・62137-1: 日本提案の3つの接合強度講検方法について進捗を確認した。 Part 1(Pull test)及びPart 2(Shear test)については現在投票中、Part 3の Cycle drop test についてはobservation コメントの内容を審議し、CD draft 原稿を Secretary に送付する事を確認した。
- 2 3 ) TC91/WG3&TC47/WG2 Joint Mtg.
  - ・実装後の半導体部品の信頼性評価では対してTC47(半導体)/WG2 との情報交換と調整を目

的として会合を持った。

共通案件としてTC91がGeneralなGlobal Spec.を担当し、TC47が半導体特有なSpec.を担当する事が確認された。鉛フリー表示についてもこの方向で進める事が確認され、TC47は半導体特有な規格として提案する場合は、再提案文書をTC91に送付し、コメントを返答する事とした。

- 2 4) 鉛フリーMarking Project
  - ・日本から提案し、NP 承認されている鉛フリー規格文書について1月度の Mesa 会議でのコメントも含めて CD draft (案) の作成する事が方向付けられた。6月にはCD 回覧し、10月には各国のコメントを審議する。
- 3.その他
  - ・次回会議 TC91 Plenary Mtg.&WG-Mtg. 2006年10月23日~10月27日ロンドンにて開催予定。 以上
- [注]: 1.該当者は、出席会議終了後[6週間以内]に TC/SC/TA 担当委員経由で、IEC 活動推進委員会事務局宛ご提出下さい。 国際会議出席報告書の審議・承認の後に補助金を支払う。
  - 会議終了後速やかに提出し、直近の運営委員会にて審議・承認を受けることが望ましい。
  - 2. 本報告書は、同一会議に2名以上出席の場合、代表者が提出してください。
  - 3.WGがTC/SC/TAと同時開催の場合は、WG会議内容はTC/SC報告に含めて報告書を提出して下さい。
  - 4.報告書の追加、訂正が生じた場合は、運営委員会開催後1週間以内に事務局に提出して下さい。
  - 5.この報告書は、手続き完了後、JEITAホームページ「IEC活動推進委員会」に掲載し、会員企業への報告に替えます。

IEC 活動推進委員会事務局:(社)電子情報技術産業協会 標準化センター

〒101-0062 東京都千代田区神田駿河台 3-11((三井住友海上別館ビル) Tel:03-3518-6435 Fax:03-3295-8727

(TSC-06 様式 2006.3)

運営委員会·資料番号: 157-3 / TC91-

提出日: 2006年6月29日

(報告者記載)整理番号:157-3/TC91-

## IEC 国際会議出席報告書

TC/SC/TA 担当委員名: 西山 和夫 報告書作成者氏名: 梅垣 淳一(会社名)日本電気株式会社

出席会議名(半角)	区分		組織番号	TC91 (半角)
TC91/WG2	☐TC ☐SC ☐TA ☑WG ☐PT	□その他	(TC/SC/TA)	1091 (丰用)
	☐TC ☐SC ☐TA ☐WG ☐PT	□その他	名 称	電子実装技術
	☐TC ☐SC ☐TA ☐WG ☐PT	□その他	(日本語)	电子表现例
	☐TC ☐SC ☐TA ☐WG ☐PT	□その他	□単独	開催 区间時開催
開催期日	2006年5月16	6日~ 2	2006年5月	17日
開催場所	(国名)ドイツ	(都市名)ベルリン		
チェアマン / コンベ ナ	D.バーグマン(代行) 幹事国 日本			
参加 国及び	4ヶ国、主な国名ドイツ、合衆国、スイス、	参加人数(	12)	
参 加 人 数				
日 本 人	[ :補放像者・・(例): 電子太郎(JEITA電子)]			
出席者名(会括)	山本克己(テクノオフィスヤマモト)、 荒金秀	(ソニー	)、鶴田加一	(溶接協会)、 梅垣淳一(NEC)、
	柴田明一(JPCA)、西山和夫(ソニー)			

議事概要(背景・目的・成果・問題点など)にの欄は見かけは1行ですが、府定欄に改引しながら最大28行まで記入できます。)

WG1、WG2、WG3横断のタスクフォースの分担である「鉛フリー表示」についても議論したいとのコンベナの強い意向により、2日間にわたり開催された。滞りがちだった文書審議も着実にすすんできたが、前回予告された新規提案は見送られた。

## 1)Pi#61192-5:プリント板実装の修理とリワーク

・RVC が未発行となっているので進捗について確認した。前回のフランクフルト会議で CDV(91/515/CDV)のすべての コメントについて議論 / 合意していたが、その結果(observation 記入済みのコメントシート)と FDIS 原稿のセクレタリへの受け渡 しが未了であることが判り、 Pi リーダ(バーグマン)が資料を確認し直接セクレタリ(西山さん)に送付することを確認した。

### 2)Pi#61190-1-3、-2:鉛フリーはんだ材料/ペースト(リーダ:鶴田)

- ・日本から提案中の鉛フリーはんだ材料 / ペーストの規格改訂について、CDV文書(91/5567/CDV、91/568/CDV)に対する各国 コメントを審議した。
- ·Pj#61190-1-2 : 各国コメントを審議し、日本が用意した提案に沿って合意した。これに基づき、FDISを発行する。 主な変更点は以下のとおり。
- ・3.8.1 と 3.8.2 のはんだボールの写真 (4 枚) に、Category1 から Category4 と分類を付け、さらに、はんだボールの発生状況の説 明をつける。
  - ·3.7.2 の Slump Test のステンシルマスク厚を 0.010mm 0.10mm とする。
  - ・参照文献を最新版に更新
- ・Pj#61190-1-3 :各国コメントを審議し、日本が用意した提案に沿って合意した。これに基づき、FDISを発行する。 主な修正点は以下とおり。
  - ·Table 2 の Flux の activity level を IEC61190-1-1 Ed.1(2002)の Table 1 と同様にする。
  - ·5.2.5 の Variation E 合金を削除する。
  - ·Sn96Ag2.5Bi1Cu0.5 合金の融点の修正
  - ·Sn95Aq5 を追加
  - ・参照文献を最新版に更新

### |3)Pj#61189-5、-6:プリント板実装/実装材料の試験方法

・本来 WG3 の議題であるが、関連する文書として、議題にあがっていたが、Pj#61189-5、-6 いずれも FDIS 段階(-5 は FDIS 発行 待ち、91/593/FDIS 発行済み)で投票待ち / 発行待ちのため、特段の議論はなかった。

### 4)鉛フリーの表示

・具体的な討議は、WG1、WG2、WG3横断のタスクフォースで行うことになっているが、WG2としての意見をまとめたいとのコンビナ の強い意向があり、MESA会議までに出された各国コメントについて、observation案を検討した。この結果を 19日(金)のタスクフォースにコンビナから提案する。

(詳細は省略)

### 5)サンプリングプラン

・フランクフルトの議事録で、サンプリングプランについて、WG1との共同Pjスタートの記述があったが、6分冊のそれぞれの分野に応じた分担や共同Pjが必要で、ボードとラミネート(-3)については、WG4を含めて審議する必要があるとの意見が出され承認された。すでにNPがリジェクトされているが、専門家を追加して復活するとともに審議体制についてもセクレタリと相談することとなった。

### 6)プリント板実装の試験方法IEC 61189-5-1

·前回、2006年6月にNP準備とのアナウンスがあったが、今回は特段の議論/報告なし。

### 7)IEC-61191-3 and 61192-3の改訂

・前回、2006年6月にNP準備とのアナウンスがあったが、今回は特段の議論/報告なし。

### 8)次回会議

・2006年10月24日(火)-25日(水): ロンドン(イギリス)

[注]: 1.該当者は、出席会議終了後[6週間以内]に TC/SC/TA 担当委員経由で、IEC 活動推進委員会事務局宛ご提出下さい。 国際会議出席報告書の審議・承認の後に補助金を支払う。

会議終了後速やかに提出し、直近の運営委員会にて審議・承認を受けることが望ましい。

- 2. 本報告書は、同一会議に2名以上出席の場合、代表者が提出してください。
- 3.WGがTC/SC/TAと同時開催の場合は、WG会議内容はTC/SC報告に含めて報告書を提出して下さい。
- 4. 報告書の追加、訂正が生じた場合は、運営委員会開催後1週間以内に事務局に提出して下さい。
- 5.この報告書は、手続き完了後、JEITAホームページ「IEC 活動推進委員会」に掲載し、会員企業への報告に替えます。

IEC 活動推進委員会事務局:(社)電子情報技術産業協会 標準化センター

〒101-0062 東京都千代田区神田駿河台 3-11((三井住友海上別館ビル) Tel:03-3518-6435 Fax:03-3295-8727

(TSC-06 様式 2006.3)

運営委員会·資料番号: 157-3/TC91-

提出日:2006年6月28日

(報告者記載)整理番号:157-3/TC91-

# IEC 国際会議出席報告書

TC/SC/TA 担当委員名:	西山和夫 報告書作成者氏名 春日壽夫 (会	社名) NEC コレクトロニクス(株			
出席会議名(半角)	区分	組織番号			
TC91/WG3	□TC □SC □TA ☑WG □PT	□ その他 (TC/SC/TA)	TC91/WG3 (半角)		
	□TC □SC □TA □WG □PT	□その他 名称	電子実装技術/試験方法		
	☐TC ☐SC ☐TA ☐WG ☐PT	□ その他 (日本語)	电丁夫农权的/武额力/云 		
	□TC □SC □TA □WG □PT	□ その他 □単独	開催 区同時期催		
開催期日	2006年 5月	18日~2006年5月19	9日		
開催場所	(国名) ドイツ	(都市名)Berlin			
チェアマン / コンヘ・ナ	春日壽夫( TC91WG3 コンビナ)	幹事国(TC91) 日本			
参加国及び 参加人数	5ヶ国、主な国名 日本、英国、ドイツ、オラング	ダ、フィンランド、参加人	数 (18)		
日 本 人	[ :補放豫者・・(例): 電子太郎(JEITA電子)]				
出席者名(会括)	坂本(オムロン)、 大島(ニチコン)、高村	喬(東芝)、気賀(ソニー	·)、山本(テク <i>ノ</i> オフィス)、		
	梅垣(NEC)、荒金(ソニー)、柴田(JPCA)、				
	春日(NEC エレクトロニクス:WG3 国際コンビナ)、西レ				
	成果・問題点など)(この欄は 見かけは1行ですが 所定欄に				
	<u>的・成果・問題点など)(</u> この欄は、見かけは	1行ですが、所定欄に	好しながら最大28行まで記入で		
きます。)					
	st methods for printed board assemblie		(91/535/RVC)		
	st methods for materials used in elect	ronic assemblies	(91/593/FDIS)		
(米国提案、日本					
	・61189-5 の FDIS 発行に付き <u>国際幹事と国際コンビナが確認することになった。</u>				
	は、FDIS が配布され 6/30 の投票期限待ちる	となっている。			
2.鉛フリーはんだに関する標準化提案					
2-1) Pj# 60068-2-21(リーダ:梅垣): 端子及び実装部品の機械的強度試験 (91/582/FDIS)					
・FDIS が配布され投票期限が 5/19 であったので、RVD の配布待ちであり、WG としてのアクションはなし。					
<u>2-2) Pj# 60068-2-54 (リーダ:大島)</u> : Wetting balance はんだ付け性試験 (IS発行完了) ・91/587/RVD が 3/24 に配布され、FDIS が承認された。4/27 に IS が発行された					
2-3) PJ# 00008-2-08	<u>9(リーダ:英国、共同リーダ/日本担当:</u> : SMDのWetting balance		(04 /605 /B)/C)		
• 01 /605/P\/C(5/12 而	. Swib of wetting barance 己布)の Observation につき、5/18 にリー		,		
幹事へ送付する(7/31	•	ソ/リノリータル協議	U、IFMUL FDIS diait を国际		
,	7 (リーダ:坂本):ウィスカ試験方法		(91/606/RVC)		
		っに其づいた FDIS dr	,		
・91/605/RVC(CDV に対するコメント)についての observations に基づいた FDIS draft 国際幹事に送付る (6/初)ことになった。					
/	バス。 バーダ:高橋):接合強度試験方法				
		a/CDV が 1/20 に配布さ	なれ、投票中(6/23)		
2-5-1) <b>part1(pull test:引っ張り試験)</b> : (91/579/CDV)91/579/CDV が 1/20 に配布され、投票中 (6/23) 2-5-2) <b>part2(shear test:せん断試験)</b> : (91/580/CDV)91/580/CDV が 1/20 に配布され、投票中 (6/23)					
2-5-3)part3(cyclic drop test:落下試験): (91/583/RVN)					
・RVN のコメントに対する Observations が紹介され CD draft を国際幹事に送付( <b>6/初)</b> することになった。					
2-6) Pj# 60068-2-20(リーダ:ドイツ、共同リーダ/日本:大島): リード付きデバイスのはんだ付け性と					
はんだ両換性試験 (91/602/CC)					
	ნ)のobservationsに基づき、CDV draft	を国際幹事に送付(6/	,		

### 2-7) **Pi#60068-2-83(リーダ:大島)**:SMD のはんだ付け性試験/ソルダペーストを用いる平衡法

(91/584/RVN

- ・3/17 に配布された 91/584/RVN に基づき CD draft を国際幹事に送付(9/初)することになった。
- <u>2-8) **Pj# IEC60068-2-84 TR(リーダ:ドイツ)**:鉛フリーリフローの温度プロファイル (91/601/DTR)</u>
- ・91/601/DTRが配布された(5/5)。投票期限が7/7であることが紹介された
- ・Pjリーダから、文書番号とタイトルの変更したい旨提案(規格仕様ではなくガイドラインであるためIEC 60068-3-XX に変更し投打おい題も変更する)があり、PjリーダがCOへ, DTR回覧中であるが変更可能かを確認することになった (1週間内:5/25)。

### 2-9) **Pj# IEC60068-2-44 改正(リーダ:ドイツ)**

- ・Pjリーダからの提案がなされ、全面的に見直す改訂版とする。 鉛フリーはんだ付け条件、ウェッティングバランス法の改版を含めたものとする。 60060-2-20において、削除したように、「solder globule test」を削除する。
- ・ガイダンス文書とし、IEC 60068-3シリーズとする。
- ・IEC 60068-2-44を廃止する (MCRを発行)

### 3.新規提案の紹介

3-1)**マイグレーション(**リーダ:戸井)・日本からの № 提案待ち

### 4 . メンテナンスサイクル文書の確認

・メンテナンスサイクルの状況が確認された(IEC 60068-2-20、IEC 60068-2-21、IEC 60068-2-44、IEC 60068-2-54、IEC 60068-2-58、IEC 60068-2-69、IEC 60068-2-77)

### 5 . TC47NG2(半導体信頼性試験方法)と TC91NG3(電子実装試験方法)との合同会議:5/19 午前

- ・6ヶ国26名(TC91WG3:5ヶ国19名、TC47WG2:6ヶ国6名)
- ・実装後の信頼性評価試験方法および鉛フリーラベル表示等に関して審議している IECTC47(半導体) WG2 からの申し入れで、重複作業を避けるための情報交換と調整を目的とした合同会議が開催された。
- <u>5-1)Joint Standard</u>: TC47WG2 から、米国国内委員会が SMB に申し入れた TC 合同の規格化提案の件につき紹介された。 TC91 としては、メンテナンス、版権(Owner Ship)等の件があり、コンセンサスを得られていないが、TC47 との連携活動は続けていくことになった。

### 5-2)**共通案件**:

落下試験方法、 ウィスカ試験方法、 鉛フリー表示につき、双方の最新審議文書を交換し意見を求める事になった(双方の窓口となる Pj リーダの確認をした)

### 6.次回会議

・TC91WG3: 2006年10月24日~25日(午前) ロンドン

(次週 10/23 の週に開催される TC91 及び TC47plenary 国際会議に合わせて会議予定)

・TC47WG2-TC91WG3 合同会議: 2006年10月25日午後~26午前に行う予定である。

### 以上

[注]: 1.該当者は、出席会議終了後[6週間以内]に <u>TC/SC/TA 担当委員経由</u>で、IEC 活動推進委員会事務局宛ご提出下さい。 国際会議出席報告書の審議・承認の後に補助金を支払う。

会議終了後速やかに提出し、直近の運営委員会にて審議・承認を受けることが望ましい。

- 2. 本報告書は、同一会議に2名以上出席の場合、代表者が提出してください。
- 3.WGがTC/SC/TAと同時開催の場合は、WG会議内容はTC/SC報告に含めて報告書を提出して下さい。
- 4.報告書の追加、訂正が生じた場合は、運営委員会開催後1週間以内に事務局に提出して下さい。
- 5.この報告書は、手続き完了後、JEITAホームページ「IEC活動推進委員会」に掲載し、会員企業への報告に替えます。

IEC 活動推進委員会事務局:(社)電子情報技術産業協会 標準化センター

〒101-0062 東京都千代田区神田駿河台 3-11((三井住友海上別館ビル) Tel:03-3518-6435 Fax:03-3295-8727

(TSC-06 様式 2006.3)

運営委員会·資料番号: 157-3/TC91-

提出日: <u>2006年6月13日</u>

(報告者記載)整理番号:157-3/TC91-

以上

## IEC 国際会議出席報告書

TC/SC/TA 担当委員名: 西山 和夫 報告書作成者氏名: 高橋 邦明 (会社名)(株)東芝

	10,00 mm,		при	<u> </u>	13 (21)	<u> </u>	
	出席会議名(半角)	区	分			組織番号	
	TC91/WG3-TC47/	□тс □sc	Пта 🗵	Лwg □рт	□その他		TC91 (半角)
	WG2 Joint Mtg.						
		□TC □SC	ПТА [		□その他		  電子実装技術
		□TC □SC	ПТА [	]WG □PT	□その他	(日本語)	- STOCKIT
		□TC □SC	ПТА [	]WG □PT	□その他	□単独	開催
	開催期日			20	006年5月	19日	
	開催場所	(国名)ドイツ			(都市名)	)Berlin	
	チュアマン/コンベナ	春日壽夫( TC91	WG3 コンビナ	-)	幹事国(	TC91) 日本	
	参加国及び	5ヶ国、主な国名	日本、英国、	、ドイツ、オ	ランダ、フィ	ィンランド、	参加人数 (18)
	参 加 人 数						
	日 本 人	[ :補放像者・・(係	列): 電子太郎	『(JEITA電子)]			
	出席者名(会招)	TC47WG2 若井(東芝	ž)、 TC91V	NG3 高橋(東芝	)、田窪(東	芝)、坂本(オ	ሬበን)、
		山本(テク <i>ノ</i> オフィス)、E	田中(ルネサス)、	梅垣(NEC)、	気賀(ソ	ニー)・荒金	(ソニー)
		潮(パナソニックエレクトロテ	ぶん)、大	島(ユチコン)、柴	田(JPCA)、		
		春日(NEC エレクトロニクン	ス:WG3国際	コルナ)、西山	(ソニー : TC	291 国際幹事	∄))
	議事概要(背景・目的・)	成果・問題点など)	この欄よ 見かけに	は1行ですが、所定欄	こ改引しながら最大	28行まで記入でき	<b>토</b> 貞。)
	1 TC47WG2(半導体信	言頼性試験方法)と	_ TC91WG3(	電子実装試験	方法)との	合同会議:5	<u>/19 午前</u>
	・実装後の信頼性評価	<b>両試験方法および</b>	鉛フリーラ	ベル表示等に	関して審議	養している	IECTC47(半導体)
	WG2 からの申し入れで、重複作業を避けるための情報交換と調整を目的とした合同会議が開催された。						
1-1) Joint Standard: TC47 が SMB に申し入れた TC 合同の規格化提案の件は、TC91 としては、メンテナンス、版権(Owner							
	Ship)等の件があり、コンセンサスを得られていないが、TC47との連携活動は続けていくことになった。						
	<u>1-2)<b>共通案件</b>:</u> TC91;	がGeneralなGlo	bal spec.ৰ	を担当し、TC	47 が半導体	特有な spe	c.を担当することが
	確認された						
	<b>落下試験方法</b> :TC9	1 の RVN 審議文書	の確認と	TC47 が半導体	特有な規格	るとして CDV	/ を準備中であり、それぞれの案
	が出来た段階で双方	うの Pj リーダ (To	C91WG3:高	橋。TC47WG2	:Jim Lynch	) 間で送付	する。
	ウィスカ試験方法: TC91 が準備中の FDIS 案を TC47WG2(Pj リーダ: Jack McCullen / Jim Lynch)へ送付。、TC47WG2						
	が検討中の提案が出てきたところで、TC91WG3 (Pj リーダ:坂本)へ送付し意見交換を行う。						
	<b>鉛フリー表示等</b> : TC91 は現在の Pj をボードを含む Global な規格として審議を進めること、TC47 は						
	半導体特有な規格と	として再提案する	予定である	ことが確認さ	された。		
	・TC47 は <b>6/末</b> までに	再提案文書を TCS	31 に送付す	るので、TC9	1は <b>8/末</b> ま	でにコメン	トを提示する。
	また、TC91 の 5/19 午後に提示される表示 Pj の結果を TC47 内で検討し、TC91 に返答することになった。Pj リーダ						
	(TC91:潮、TC47WG2:Jim Lynch)						
	(TC91:潮、TC47W	G2:Jim Lynch)					

[注]: 1.該当者は、出席会議終了後[6週間以内]に TC/SC/TA 担当委員経由で、IEC 活動推進委員会事務局宛ご提出下さい。 国際会議出席報告書の審議・承認の後に補助金を支払う。

・TC47WG2-TC91WG3 合同会議: 2006年10月25日午後~26午前にロンドンで行う予定である。

- 会議終了後速やかに提出し、直近の運営委員会にて審議・承認を受けることが望ましい。
- 2.本報告書は、同一会議に2名以上出席の場合、代表者が提出してください。
- 3.WGがTC/SC/TAと同時開催の場合は、WG会議内容はTC/SC報告に含めて報告書を提出して下さい。
- 4.報告書の追加、訂正が生じた場合は、運営委員会開催後1週間以内に事務局に提出して下さい。
- 5.この報告書は、手続き完了後、JEITAホームページ「IEC活動推進委員会」に掲載し、会員企業への報告に替えます。

IEC 活動推進委員会事務局:(社)電子情報技術産業協会 標準化センター

2.次回会議

〒101-0062 東京都千代田区神田駿河台 3-11((三井住友海上別館ビル) Tel:03-3518-6435 Fax:03-3295-8727

運営委員会·資料番号: 157-3 / TC91-

提出日: 20066年6月27日

(報告者記載)整理番号: 157-3/TC91-

## IEC 国際会議出席報告書

TC/SC/TA 担当委員名: 西山 和夫 報告書作成者氏名: 潮 憲樹 (会社名)パサニッケエ・バイス

出席会議名(半角)	区分		組織番号	TC91 (半角)	
TC91/62468	☐TC ☐SC ☐TA ☐WG ☒PT	□その他	(TC/SC/TA)	1031 (丰用)	
Pj-Mtg.	☐TC ☐SC ☐TA ☐WG ☐PT	□その他	名 称	電子実装技術	
	☐TC ☐SC ☐TA ☐WG ☐PT	□その他	(日本語)		
	☐TC ☐SC ☐TA ☐WG ☐PT	□その他	□単独	開催 図 同時開催	
開催期日	2006年5月19	9日~ 2	2006年5月	] 19日	
開催場所	(国名)ドイツ	(都市名)	ベルリン		
チェアマン / コンベ ナ	潮(Pj リーダ)	幹事国	日本		
参加 国及び	6 ヶ国、主な国名 ドイツ,英国,米国,7/フン	ド , オラン:	ダ,日本 参	勍人数(26)	
参 加 人 数					
日 本 人	[ :補放豫者… (例): 電子太郎(JEITA電子)]				
出席者名(会括)	潮 憲樹(パナソニックエレクトロニックデパイス), 山本 克己(テクノオフィスヤマモト),春日 壽夫・梅垣 淳一(NEC),荒金 秀幸・				
	西山 和夫·気賀 智也(ソニー), 大島 寛(ニチコン), 坂本 一三(オムロン), 柴田 明一(JPCA), 高橋 邦明·田窪 知章·若井 (東				
	芝) , 田中 正樹(ルネサステクノロジ) ,				

議事概要(背景・目的・成果・問題点など)(この欄は見かけは1行ですが、府定欄に改行しなが6最大28行まで記入できます。)

### 1.背景

日本から新規提案した"材料・部品・実装済み基板の特定の化学物質の含有非含有表示(91/531/NP)"が承認され、TC91/WG1 傘下の PT (62468 Ed.1) として活動を開始した。本年 1 月には関連する TC91/WG2 の検討会がアメリカで開催され、日本提案に対しての改善案が提示された。この改善案も含めて、CD d raft 案を PT メンバーに回覧し、今回第 1 回の PT 会議を開催し、CD draft を作成することとした。

#### 2. 審議状況事

事前に提示していた CDdraft 案に対して、5月 15 日及び 16 日に TC91/WG2 にて再度事前検討がなされ、再修正案が提出された。5月 19 日の午前中には TC47/WG2 と TC91/WG3 との Joint Meeting が開催され、参考意見を頂いた。 TC47/WG2 から半導体に対象を限定した NP を 6 月に提案する意思表明があった。 提案の時には PT としての意見を要望された。 このことは、従来からの米国意見である" e コード"について半導体に限っての再提案の意思表明と受け取った。

PT メンバー (Huck 氏、Scat 氏、大島氏、Bergman 氏は入院され Jack 氏、潮) 及び関係 WG からのメンバー参加の下で第1回 PT 会議を開催した。

### 主な審議結果を次に示す。

- ・ 規格タイトルの「非含有」の英文表記を "non-presene"から"absence"に修正
- ・この規格は,国際アンケートの結果に対する TC91 フランクフルト会議で確認した Statment に基ずくことを記載
- ・ 適用範囲に包装材が含まれないことを明記
- ・ スティックマガジン及びマトリックストレイの最小梱包単位を包装箱に修正
- ・ 非含有表示 "G" と他の表示との併記はしない
- ・ 本体表示は , 対象物に表示できるスペースがある場合だけ
- ・ はんだ組成の表記については IEC 又は ISO で規定される記号を使用することし、"e-code"は現状では不採用
- ・米国提案の文章表現を大幅に取り入れた

#### 3.成果

- CDdraft 案の骨格は承認された。
- ・会議結果に基づき、6月にはCD回覧し、3ヶ月経過後である10月に各国コメントの審議をすることを確認した。
- 4. 問題点など
- ・適用除外項目を規定しているが、欧州や日本その他の法律では更なる除外規定が採用されている。除外項目の可否も含めて、 継続審議が必要。
- ・特定有害化学物質の分析方法がIECで規定された時にはその方法を採用する必要がある。
- ・はんだ組成表示についてはIEC/ISOを基本にすべきであり,10月までにTC47でのNPがTSにはならないと考える。

運営委員会·資料番号: 157-3 / TC91-

提出日: 2006年6月28日

(報告者記載)整理番号: 157-3/TC91-

## IEC 国際会議出席報告書

TC/SC/TA 担当委員名: 西山 和夫 報告書作成者氏名: 山内 秀雄 (会社名)ソニーEMCS(株)

				<u> </u>	
出席会議名(半角)	区分		組織番号	TC91 (半角)	
TC91/WG12	□TC □SC □TA ☑WG □PT	□その他	(TC/SC/TA)	1091 (年用)	
	☐TC ☐SC ☐TA ☐WG ☐PT	□その他	名 称	電子実装技術プリント基板55十	
	☐TC ☐SC ☐TA ☐WG ☐PT	□その他	(日本語)		
	□TC □SC □TA □WG □PT	□その他	□単独	開催	
開催期日	2006年5月15	5日~ 2	2006年 5月	16日	
開催場所	(国名)ドイツ	(都市名)	ベルリン		
£17₹)/1V^* t	Dieter W.Bergman	幹事国	日本		
参加国及び	4ヶ国、主な国名 アメリカ/ドイツ/スイス/日本	、参加人数	(6)		
参加人数					
日 本 人	[ :補放豫者・・(例): 電子太郎(JEITA電子)]				
出席者名(会括)	山内 秀雄(ソニー)、柴田 明一(JPCA)				
送事物画(北里 日始 代田 問題上れば)					

議事概要(背景・目的・成果・問題点など)にの欄は見かけは1行ですが、府定欄に改元しなが6最大28行まで記入できます。)

- ・背景: USより、IEC61188-7のドラフトが出され、その審議を行う。
- ・目的: IEC 61188-5-3/5-4/5-5/5-8(日本作成文書)の進捗監認。

IEC 61188-7 Zero Orientation CDV 作成のためのドラフトの審議。

- ・成果: (1) メンバーシップリスト/Agenda の確認を行う。
  - (2) IEC61188-5-3, -5-4, -5-5, -5-8 ステイタスの確認。
  - (3) IEC61188-5-1(Generic requirement)、IEC61188-5-2(Discrete components)、IEC61188-5-6 (Chip carriers with J-leads on four sides)のメンテナンスについて 5-2、5-6 は、5-1 の変更によって 大きく影響を受ける。5-1 の変更案が出ているが、今回は、61188-7 に重点を置き、東京会議で継続審議とすることとした。
  - (4) IEC 61188-7 (Electronic Component Zero Orientation for CAD Library Construction)の確認
  - 1) 05年9月のフランクフルト報告で、USは1ピンがUpper または、Upper left となるように配置するというのに対し、ドイツ・日本は1ピンがLeft または、Lower left となるように配置するという案のため、US 案をレベルAドイツ・日本案をレベルBとしてユーザーが選択できる形としたが、事前配布のドラフトでは、絵柄はUS 案のみ記載、その他は日本提案の文書 という形だった。
  - 2) 改めて、昨年の提案通りレベルAとレベルBを両方記載することとした。
    ただし、ドイツ案もUS案も、2端子部品では、プラス側を左といいながら、アノードが左であるなど、表現が一貫していないため、機能で表現することは止め、部品の表示(形状上の特徴も含め)を左とする、という表現にした。これで基本的な考えとしては、日本提案はまま盛り込まれたと言える。 2端子を超える部品については、US提案とドイツ・日本提案では、オリジンの状態で、角度を90度回転させただけとなり、システム上も簡単になった。
  - 3) その他、ドラフトの審議により、訂正を行った。 日本提案部分の絵柄については、後日修正して、バーグマンに送る。
  - (5) 6/1 JNG11 と WG12 東京会議を行い、ベルリン会議の確認及び、修正、5-1 のメンテナンスを行う。 --以上--

[注]: 1.該当者は、出席会議終了後[6週間以内]に TC/SC/TA 担当委員経由で、IEC 活動推進委員会事務局宛ご提出下さい。 国際会議出席報告書の審議・承認の後に補助金を支払う。

会議終了後速やかに提出し、直近の運営委員会にて審議・承認を受けることが望ましい。

- 2. 本報告書は、同一会議に2名以上出席の場合、代表者が提出してください。
- 3.WGがTC/SC/TAと同時開催の場合は、WG会議内容はTC/SC報告に含めて報告書を提出して下さい。
- 4.報告書の追加、訂正が生じた場合は、運営委員会開催後1週間以内に事務局に提出して下さい。
- 5.この報告書は、手続き完了後、JEITAホームページ「IEC活動が性重委員会」に掲載し、会員企業への報告に替えます。

IEC 活動推進委員会事務局:(社)電子情報技術産業協会 標準化センター

〒101-0062 東京都千代田区神田駿河台 3-11((三井住友海上別館ビル) Tel:03-3518-6435 Fax:03-3295-8727

運営委員会·資料番号: 157-3/TC100/TA1-

提出日: 2006年8月10日

(報告者記載)整理番号:157-3/TC100/TA1-

# IEC 国際会議出席報告書

TCSC/TA 担当委員名: 伊賀公幸 報告書作成者氏名: 伊賀公幸 (会社名)株式会社 東芝

_					
出席会議名(半角)	区分		組織番号	TA1 (半角)	
PJ 会議(62487)	□TC □SC □TA □WG ☒PT	□その他	(TC/SC/TA)	「八 I (手用)	
	☐TC ☐SC ☐TA ☐WG ☐PT	□その他	名 称	放送用エンドユーザ機器	
	☐TC ☐SC ☐TA ☐WG ☐PT	□その他	(日本語)	が公元エントユーが成品	
	□TC □SC □TA □WG □PT	□その他	□単独	開催 □同時開催	
開催期日	2006年7月18	3日~ 2	2006年7月	19日	
開催場所	(国名)米国	(都市名)	アーリント	ン(ワシントンDC)	
チュアマン / コンベ ナ	Mr. Jon Fairhurst 幹事国 日本				
参加国及び 参加人数	6 ヶ国、主な国名 JP(6), US(15), UK(3), AU(1), NL(1), KR(2)、参加人数 (28)				
日 本 人	[ :補 <b>放嫁者・・</b> (例): 電子太郎(JEITA電子)]				
出席者名(会括)	伊賀公幸(東芝)、平川秀治(東芝)、稲垣一彦(ソニー)、岩崎(公治(シャーブ)、打土井正孝(パイオニア)、安藤亨(松下電産)				

議事概要(背景・目的・成果・問題点など)にの欄は見かけは1行ですが、所定欄に改行しなが6最大28行まで記入できます。)

TV の平均消費電力測定法を規格化するプロジェクト。米国の規格化要求が発端。米国に先行して 2006 年 3 月に日本で活脈とされた消費電力測定方法(JEITA 提案)をこれに盛り込む必要がある。 Display Device にもこの規格を利用したい TC110 と IT 機器の消費電力測定法を規格化している TC108 との Joint Project。 規格化のリード、手続きは TC100。

スコープ議論では Television Set で落ち着いたが、CRT, LCD, PDP, PJ さらに Multi-function まで含むことになった。 Tuner 無しも含む。 但し、 動作モードは On mode。

焦点の On mode では、JETTA の静止画則定方法と米国と UK が提案している動画の測定方法とを別の Sub clause (6.1, 6.2)で並列記述することとなり、日本方式を規格に盛り込みことに成功した。APL に応じた複数の動画の重み付けは、Informative Annex、独立した規格の形式で文書化作業を行って、年間消費電力量を Informative Annex に記載するかどうが、既存規格の 62087 との関係を特に UK がどう考えるか等を今後考慮して、規格書の邪態(新規格、62087 の Revision あるいは Annex)を決めることになった。

2006/9 Working Draft 完, 2007/1 Committee Draft 完、2007/9 規格化というとてもハードな日程。米国側の努力 (受けている) はなかなかのもので、この日程キープに向けて頑張っている。

- [注]: 1.該当者は、出席会議終了後[6週間以内]に TC/SC/TA 担当委員経由で、IEC 活動推進委員会事務局宛ご提出下さい。 国際会議出席報告書の審議・承認の後に補助金を支払う。
  - 会議終了後速やかに提出し、直近の運営委員会にて審議・承認を受けることが望ましい。
  - 2. 本報告書は、同一会議に2名以上出席の場合、代表者が提出してください。
  - 3.WGがTC/SC/TAと同時開催の場合は、WG会議内容はTC/SC報告に含めて報告書を提出して下さい。
  - 4.報告書の追加、訂正が生じた場合は、運営委員会開催後1週間以内に事務局に提出して下さい。
  - 5.この報告書は、手続き完了後、JEITAホームページ「IEC 活動推進委員会」に掲載し、会員企業への報告に替えます。
  - IEC 活動推進委員会事務局:(社)電子情報技術産業協会 標準化センター
  - 〒101-0062 東京都千代田区神田駿河台 3-11((三井住友海上別館ビル) Tel:03-3518-6435 Fax:03-3295-8727

(TSC-06 様式 2006.3)

様式 4

資料 No.	< T C 1 0 0 / TA5 関係 > 国際会議報告書
157-3 / TC100 / TA5	TC100 / TA5 「マルチメディアシステム・機器 / ケーブルネットワーク」ハンブルグ会議報告 書 20060614

様式 4

(社)電子情報技術産業協会 IEC活動推進委員会 御中 運営委員会·資料番号: 157-3/TC100/TA5- (事務局記入)

提出日: 2006年6月23日

(報告者記載)整理番号:60728-M-1

## IEC 国際会議出席報告書

TC/SC/TA 担当委員名: 松本 檀 報告書作成者氏名: 松本 檀 (会社名) NEC

		(AITH)		
出席会議名(半角)	区分		組織番号	TC100/TA5 (半角)
TA5 Preliminary	☐TC ☐SC ☐TA ☐WG ☒PT	□その他	(TC/SC/TA)	10 100/1/10 (+/A)
	☐TC ☐SC ☐TA ☐WG ☐PT	□その他	名 称	ケーブルネットワーク
	☐TC ☐SC ☐TA ☐WG ☐PT	□その他	(日本語)	7 2764312 7
	☐TC ☐SC ☐TA ☐WG ☐PT	□その他	⊠単独	開催 □同時開催
開催期日	2006年6月14日 ~ 2006年6月14日			
開催場所	(国名) ドイツ	(都市名)	ハンブルグ	
チュアマン / コンベ ナ	Dr. D. Schwarzenau	幹事国	日本	
参加国及び 参加人数	2ヶ国、主な国名 日本・ドイツ、参加人数(3)			
日 本 人	[ :補放嫁者・・ (例): 電子太郎(JEITA電子)]			
出席者名(会)名)	松本 檀 (NEC) ラッカパン バラスブラマニ	アン (シンクレ	イヤ)	

議事概要(背景・目的・成果・問題点など)(この欄は、見かけは1行ですが、府定欄に改行しながら最大28行まで記入できます。)

本年9月のベルリン会合にて日本から TV 信号伝送用 FTTH システムと測定法を提案する予定である。過去欧州 CENELEC 一辺倒であった TA5 標準化活加に日本から一石を投じることとなる。現在の仕様書群構成を維持しつつ9月会合での提案対象をスムーズにおこなうため、6月初頭に提案文書を IEC 60728 Part-6 メンバーに配布した。続いて TA5 での光装置担当 PL である Dr. Schwarzenau 氏とハンブルグにて6月14日に会合し、日本提案を説明、加えて日本の光システム現状を説明した。会談の主な議題と結果は以下の通り。

1. 提案文書について

FTTHシステムの標準化は必要であり、現在のIEC60728文書に欠落しているとの認識で一致。

Part 6 と新文書の関係

Dr. Schwarzenau は現在の TR(Part 6-1)が Specification でない事を承知しており、FTTH へのガイドとしての役割であることを 重ねて表明。会談の結果、システム標準はシステム測定法とともに Part X を構成することが合意された。

3 . Part 6 メンバーへの文書回覧

当方文書はすでに Dr. Schwarzenau から Part 6 メンバーに彫いされており、コメント待ちの状態。但し詳細な検討は、Berlin 会合でパート分け(Part 6 と Part X)が合意されてから後に行うことが確認された。

4 . NP提案

日本から二文書を NP 提案として提出することを表明。

以上の結果、日本提案の趣旨と内容については理解され、且つ提案提出に賛同が得られたため、9月ベルリン会合での日本提案採択は、ほぼ確実となったと思われる。なお以前から縣案であったSC86C との標準化領域問題については、本年5月にSC86C WG1と会合し、アナログ光伝送についてはTA5の所掌とすることで合意に達している。

運営委員会·資料番号: 157-3 / TC110-

(事務局記入)

提出日: 2006年6月30日

(報告者記載)整理番号: 110-01A

## IEC 国際会議出席報告書

報告書作成者氏名: 篠田 傳 (会社名)富士通株式会社 TC/SC/TA 担当委員名: 森本 光孝

出席会議名(半角)	区分		組織番号	TC110WG4 (半角)
TC110/WG4	☐TC ☐SC ☐TA ☑WG ☐PT	□その他	(TC/SC/TA)	10110/110 ( ( /ha)
	☐TC ☐SC ☐TA ☐WG ☐PT	□その他	名 称	フラットパネルディスプレイ / プ
	□TC □SC □TA □WG □PT	□その他	(日本語)	ラズマディスプレイ
	□TC □SC □TA □WG □PT	□その他	⊠戦	開催 □同時開催
開催期日	2006年6月9日 ~ 2006年6月11日			
開催場所	(国名)アメリカ合衆国 (都市名)サンフランシスコ			シスコ
チュアマン / コンベ ナ	篠田 傳	幹事国	日本	
参加国及び 参加人数	6ヶ国、主な国名 日本、韓国、中国、米国、フ	<sup>7</sup> ランス、オ	ランダ、参	加人数 (18)
日本人出席者名(会培)	[ :補放嫁者…(例): 電子太郎(JEITA電子)] 篠田傳(富士通),寒川史郎(チノー),田中宏典(松 正孝(パイオニア)	下電器), 3	安藤亨(松下電	器),池田あゆみ(エスペック), 打土井

議事概要(背景・目的・成果・問題点など)(この欄は見かけは1行ですが、所定欄に改行しながら最大28行まで記入できます。)

<背景・目的>

WG4 会議は、2006 年 2 月 (東京 ) に続く会議となる。 審議中規格は以下のとおりである。

|申請書では61~3の開催と記載したが、今回当 WG は WG5 と開御寺期をずらし、実際には69~11 の開催となった|

Electrical Interface Measuring methods - Quality Climatic and mechanical testing methods Generic specification Measuring methods - Visual Quality Measuring methods - optical and optoelectrical

JEITA/電子ディスプレイ標準化委員会/プラズマディスプレイグループの IEC 対応プロジェクトで焼計してきた素案をできる だけ多く反映させる形で進める。

その他プラズマディスプレイ業界の直面する状況についてディスカッションを行う。 <成果>

活発な議論により以下の成果が得られた。

- ・上記について、日本より修正案を提案して承認され、FDISへの最終野階に至った。
- ・上記 については NP 投票前だが、活発な技術論義が行われ、すでにいくつかの提案が挙げられた。また、日本より「動画解 像度」測定法の項目追加を提案し、これについても活発な議論が行われた。項目追加には前向きな意見が多い。
  - ・上記 について、打土井委員がリーダーとして議論を引っ張り、特にパネル発光効率について審議を行った。
- ・消費電力測定法につき TC110 と TC100 とジョイント活動について報告と議論が行われた。ジョイントの活動には、打土井委 員と安藤委員が TC110 代表として参加している。
- ・TC110/WG5 の委員がオブザーバーとして参加し、共通事項 (測定法) について意見交換を行った。デバイス間で整合を取っ た形での規格化を目指す。

<問題点・その他>

・消費電力の測定法は、米国や欧州などの動きが IEC の動き以上に急ピッチで進んでおり、 ジョイント PG もさることながら、 PG 参加メンバー(日本メンバーを含む)の密接な連携、JEITA/電子ディスプレイ標準化委員会/プラズマディスプレイグループの バックアップが不可欠である。積極的に議論に参加し、前向きに進めなければ不利な条件の測定法が決められてしまいかねない。 時間切れにも要注意である。

・次回開催予定:2006年8月,韓国(アドホック会議)

[注]: 1.該当者は、出席会議終了後[6週間以内]にTC/SC/TA担当委員経由で、IEC活動推進委員会事務局宛ご提出下さい。 国際会議出席報告書の審議・承認の後に補助金を支払う。

会議終了後速やかに提出し、直近の運営委員会にて審議・承認を受けることが望ましい。

- 2. 本報告書は、同一会議に2名以上出席の場合、代表者が提出してください。
- 3.WGがTC/SC/TAと同時開催の場合は、WG会議内容はTC/SC報告に含めて報告書を提出して下さい。
- 4.報告書の追加、訂正が生じた場合は、運営委員会開催後1週間以内に事務局に提出して下さい。 5.この報告書は、手続き完了後、JEITAホームページ「IEC活動推進委員会」に掲載し、会員企業への報告に替えます。

運営委員会·資料番号: 157-3/TC110- (事務局記入)

提出日: 2006年6月26日

(報告者記載)整理番号:110-01F

## IEC 国際会議出席報告書

TC/SC/TA 担当委員名: 森本 光孝 報告書作成者氏名: 田辺貴久 (会社名)パイオニア(株)

出席会議名(半角)	区分				
TC110/WG5 San		_	組織番号	TC110WG5 (半角)	
Francisco	☐TC ☐SC ☐TA ☒WG ☐PT	□ その他	(TC/SC/TA)		
Meeting					
	⊠TC □SC □TA □WG □PT	□その他	名 称	フラットパネルディスプレイ/有	
	☐TC ☐SC ☐TA ☐WG ☐PT	□その他	(日本語)	機E Lディスプレイ	
	☐TC ☐SC ☐TA ☐WG ☐PT	□その他	□単独	開催 □同時開催	
開催期日	2006年6月1日 ~ 2006年6月3日				
開催場所	(国名)米国 (都市名)サンフランシスコ				
チュアマン / コンベ ナ	Prof. Changhee Lee(Seoul National Univ.) 幹事国 日本				
参加国及び 参加人数	5ヶ国、主な国名 日本、韓国、中国、米国、フ	ィンラント	、参い数	(13)	
日 本 人	[ : 補放豫者… (例): 電子太郎(JEITA電子)]				
出席者名(会培)	田辺貴久(パイオニア),池田あゆみ(エスペック)				

議事概要(背景・目的、成果・問題点など)(この欄は見かけは1行ですが、所定欄に改行しながら最大28行まで記入できます。)

次の4アイテムに関して審議を行った。

- (1) Measuring methods of optical and optoelectrical
- (2) Generic specification
- (3) Environmental and mechanical endurance test methods
- (4) Measuring methods of visual quality
- (1)については、進捗が遅れ気味のため、今回の会議では最優先審議課題であった。活発な議論がなされたが、技術的な決着に至らない項目も多く、プロジェクトリーダー(中国)が持ち帰って検討することになった。今後の予定は、7月中に2nd.CD発行、年内にCDV準備完了である。
- (2)については、2㎡.CDに対する審議もほぼ完了していたため、特に問題なく CDV を発行することになった。7月中に CDV 準備完了予定である。
- (3)については、プロジェクトリーダー(韓国)から機械にば緩を分離させる提案があり、各国が持ち帰り検討することになった。その他の項目に関して審議がなされた。
- (4)については、正式なプロジェクトにはなっていない子備鏡がの段階であるが、今回始めてドラフトの体裁をとった文書が 用意され審議がなされた。

その他の決定事項としては、年間消費電力測定法接対WG (TC100とTC110の Joint WG )にWG5 からは韓国 LG Philips の Dr. Park が参加することになった。

今後の会議予定は次の通りである。

- ・ 2006年9月16~17日 韓国・チェジュ島(EL2006の直前、アドホック会議)
- · 2006年12月3~5日 日本・大津(IDW2006の直前)
- [注]: 1.該当者は、出席会議終了後[6週間以内]に TC/SC/TA 担当委員経由で、IEC 活動推進委員会事務局宛ご提出下さい。 国際会議出席報告書の審議・承認の後に補助金を支払う。

会議終了後速やかに提出し、直近の運営委員会にて審議・承認を受けることが望ましい。

- 2. 本報告書は、同一会議に2名以上出席の場合、代表者が提出してください。
- 3.WGがTC/SC/TAと同時開催の場合は、WG会議内容はTC/SC報告に含めて報告書を提出して下さい。
- 4.報告書の追加、訂正が生じた場合は、運営委員会開催後1週間以内に事務局に提出して下さい。
- 5.この報告書は、手続き完了後、JEITAホームページ「IEC活動推進委員会」に掲載し、会員企業への報告に替えます。

IEC 活動推進委員会事務局:(社)電子情報技術産業協会 標準化センター

〒101-0062 東京都千代田区神田駿河台 3-11((三井住友海上別館ビル) Tel:03-3518-6435 Fax:03-3295-8727

(TSC-06 様式 2006